



# Via Latina 22

2020年7月 292号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### コートジボワールでの初誓願式



6月27日、土曜日、コートジボワール、アバジャン＝デュメの修練院にて2名の兄弟たちが2年間の準備を終えてマリア会の初誓願を宣立しました。新たなマリア会修道者はコンゴ特別地区のGhislain Atandele Simanabato士とコートジボワール従属地区のEric Kouame Kouassiです。感染症拡大によってもたらされた規制の中、誓願式は同修練院にて、近くの共同体のブラザーたちとマリアニスト家族メンバーの出席の下、行われました。

誓願式はFrançois Nanan師によって司式されました。従属地区長、Georges Gbeze師がフランス管区長の代理として彼らの誓願を受け入れました。私たちは2人の新たなブラザーにマリアニスト生活の素晴らしいスタートを期待します：神の民への奉仕において私たちに委ねられている使命への奉仕に対して、この誓願式が、彼らの召命と誓約に彼らが更に根を張る機会となりますように

## 祈りを込めた一致のうちに

Covid-19感染症拡大が私たちの世界に重荷となり続けているので、私たちは、特に最も貧しく最も恵まれない人々の間でこの災害に苦しむ全ての人々、病人と彼らを看病する人たち、彼らの家族、そして関わりのある全ての犠牲者と一緒に、祈りと希望で心をつなげましょう。私たちは現時点で特にアメリカ大陸とインドで最も被害を受けた地域と共に祈っています。私たちの召命と手段に従って主が私たちに呼びかけておられるような、どう行動すべきかの知識もまた主に願ひましょう。

"無関心の世界化が私たちの歩みにおいて脅威と試練をもたらしている今、私たちの中に正義、慈愛、そして連帯という抗体を見出すことが出来ますように。私たちは“愛の文明”という別の可能性に生きるのを恐れてはなりません。これは、《苦悩と恐れ、悲しみと落胆、そして消極性と疲労に対する希望の文明です。愛の文明は日ごと絶え間なく築かれています。それは皆が参加する努力を求めます。このような訳で、愛の文明は献身を誓ったブラザーとシスターの共同体を求めます》。"

(2020年4月17日、教皇フランシスコの「ビーダ・ヌエバ」での会見；教皇によって成された引用はアルゼンチン人Eduardo Pironio枢機卿からのもの)

---

## 7月の財務部の国際会議



約1年前に、総長評議員会は2020年7月中に財務部長の会議が開催されることを発表しました。この会議は第35回総会の方針に沿うもので、ローマでの開催を予定していました。また各財務部長は、もし望むなら、財務部で働いている人を一人、一緒に参加させることが出来ました。

言うまでもなく、感染症拡大が予定していたこの会議の開催の妨げになりました。しかしながら、少なくとも目的の一部でも実現しようと試みられ、一連の会議が7月6日～11日まで言語グループ別で開催されることになりました。各グループは2日間、1日3時間の会議を行います。英語グループが2組、スペイン語、フランス語グループ各1組ずつです。会議がバーチャルで行われるので、各財務補部長は議題に係る他の参加者を招待することは自由です。

討議される話題には次のことが含まれています：「マリア会一般財務指針」；マリア会全体に進行中の修道会基本財産計画(Patrimonium Project)；連帯と安定；そして報告責任。これら全ての項目は総会で取り上げられた重要なポイントであり、同時に、行政単位への視察の時の体験、および行政単位本部と総本部との間での対話によって提起された関心あるテーマでもありました。

最初の計画としては、私たちは一対一の会議でもたらされる幅広い話し合いや兄弟的支援のための機会を持ちたいと望みましたが、このバーチャル会議が参加者にとって助けになるだろうし、また私たちの共有基本財産の賢明で注意深い管理運営、我々修道者とその使命への物質面の支援、そして神の民へのJPIC活動のために、各行政単位の本部と財務部間の進行中の対話を強化したい、という強い希望を私たちは持っています。

## 100年前、Jakob Gappはマリア会に入会しました

人生は次々に起こる出来事、出会い、そして注目に値する事柄に満ちています。ある人の生涯の本を開けることは、時には、その中に隠されている意味、今日に意味を与えてくれる特別な反響を発見させてくれます。

それは1943年8月13日に起こったプレッツェンゼーのベルリン刑務所でのJakob Gappの経験でした。その体験は、23年前のあのまさに同じ夏の幸せな一日、すなわち将来、彼が自分の命を捧げることに於いて完結することになる一日を思い起こさせるものとなりました：曰く「1920年8月13日、私は修練期を始めました、私の生涯で最も素晴らしい年です、そして今日、私は祝福された永遠の命を始めることができると希望します。」



1897年7月26日、オーストリアのチロル地方ヴァッテンズで生まれた彼は、1915年に祖国を守るために自主的に軍に志願した時、まだ18才になっていませんでした。戦争が終わり捕虜生活から解放された後、この23才の若者は彼が軍に志願していた時と同じ熱心さで修道生活に入りたいと望みました。彼は大変率直な人で、管区長に会うためフライシュタットに向かい、列車から降りるなり、彼を迎えに来た修道者に言いました：「やっと着きました、私は社会主義者です、司祭になりたいのです。もし私が相応しくないなら今すぐそう言ってください、そしたら私は家に帰ります。」

Jakobは1920年8月13日、オーストリアにあるグライジングホーフのマリア会修練院に入りました。それは、その時はまだ分からなかった人生の終わりを前もって告げる始まりでした。23年後1943年8月13日がヤコブ・ガップ師がその全生涯を捧げる1日になろうと、誰が考えることが出来たでしょうか？

理想に満ちたこの人物には、真理への探究が持続していました。彼が司祭になるために勉学を始めたのはこの精神においてでした。曰く「1925年に28才で神学校に入ったとき、私は強い信念をもって自分に言いました：これから数年間の勉学の間、私は自分が真に感じる事にだけに拘ることができるだろう。なぜなら私は半端に信じてはならないし、また教会の教理への義務だからと信じるべきではないからです。もしこの信仰が本当に私の中に浸透し、またそれが真に私のものになっているなら、私は本当に説得力ある方法で他の人々に私の信仰について話せるでしょう」。彼が自分の知識を理解し、確かめ、そして深めるために、自分の先生たちと長時間語り合ったのは、また同様にこの精神においてだったのです。

国家社会主義の台頭の時期に、彼はこのイデオロギーを綿密に調べ、そしてその後、一つのことを確信しました；それは、国家社会主義はキリスト教信仰とは相いれないという確信です。この確信は、彼が自分の生徒たち、および自分の生まれた村の教会の説教壇から話しかける人々を含めて、彼が出会う全ての人たちと分かち合う戦いとなりました。彼はナチスのお尋ね者になり、そしてゲシュタポ



に追われる身となりました。それでフランスに亡命し、次にスペインに逃れたので、彼は誤解を招きました。

自分の生涯についての最高の証しをしようとしていたときに、死去した総長の後継者となる、マリア会総長代理であったJung師に手紙を書きました（この手紙は、ベルリンでの有罪判決資料の中に残っており、後年になって漸く発見されることとなります）。皆さんはこの手紙を読んだり、再読したりすることが出来ます。（下記の枠内を見てください）

彼を記憶に留め、また彼の執り成しを信じるのを忘れないようにしましょう。

1943年8月13日  
プレッツェンゼーにて

親愛なる総長閣下

亡くなる前にあなたにお別れの挨拶をしなければ、と思いました。7月2日、御心の祭日に、裏切りのかどで死刑を宣告されました。今夜7時に死刑が執行されます。

昨年11月9日以来の捕虜生活の中で、私は、自分の人生を十分に振り返りました。あなたと知り合ってからあなたがわたしにしてくださったすべてのことに心から感謝いたします。私は、いつも自分のことをマリア会のメンバーだと思っています。私は誓願を更新し、天の御母のみ手を通して私を神に捧げます。

あなたにご心配をおかけしたかも知れない私をお許してください。私は何ヶ月かとても辛い時期を過ごしました。しかし、今は全く幸せです。思うに、辛い時期が私を浄めたのかも知れないと思います。

修道的兄弟たちによろしくお伝えくださいますように。すでにあちらの世界にいる人たちによろしく伝えましょう。天国以外はすべて過ぎ去ります。

1920年8月13日、私は修練期を始めました、私の生涯で最も素晴らしい年です、そして今日、私は祝福された永遠の命を始めることができると希望します。

さようなら。私のために祈ってください。私もあなたのために祈ります。またお会いできるでしょう。

イエス・マリア・ヨセフのうちに感謝して

ヤコブ

## 最近の総本部通信

- 訃報：14－16号
- 6月9日：拡大総長評議員会 3か国語でゾーン会議議長宛て  
総長アンドレ・ヨゼフ・フェティス師からの送付

## メールアドレスの変更

James Bartlett師 (US): [jimatmcsw@gmail.com](mailto:jimatmcsw@gmail.com)

Sebastien Bakpenam Abalodo師 (TO): [babalodo1@udayton.edu](mailto:babalodo1@udayton.edu)

Yves Agbadou士 (CI): [woudyawoudy@gmail.com](mailto:woudyawoudy@gmail.com)